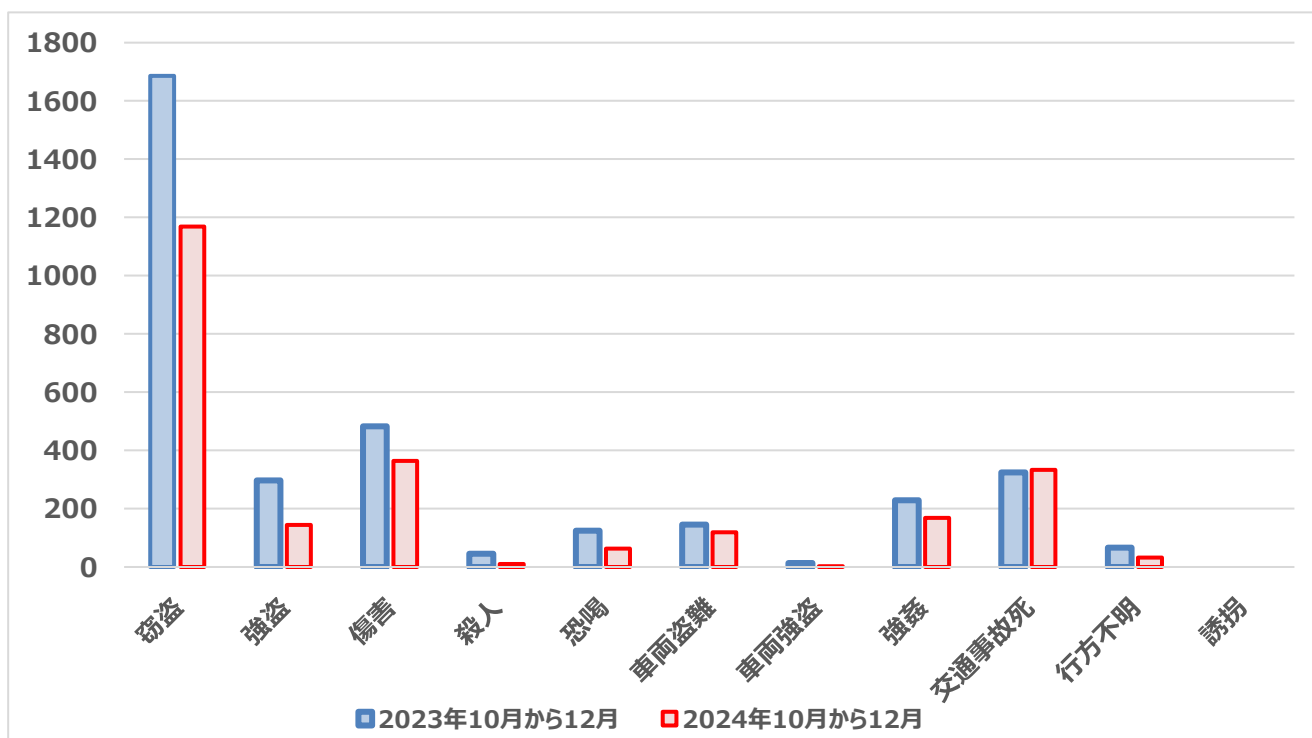


## 海外安全対策情報

### 1. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

2024年10月から12月におけるエルサルバドル国内での犯罪統計は以下のとおりです。

	2023年10月から12月	2024年10月から12月	前年差
窃盗	1,686	1,169	-517
強盗	297	144	-153
傷害	483	364	-119
殺人	46	10	-36
恐喝	125	63	-62
車両盗難	145	119	-26
車両強盗	14	3	-11
強姦	229	169	-60
交通事故死	325	333	+8
行方不明	65	32	-34
誘拐	0	0	0
合計	3,416	2,406	-1,010



2024年10月から12月における主要犯罪発生件数は、2023年の同時期と比較して大幅に減少しました。2022年3月に発効、現在も継続中である、「例外措置体制（憲法で保障される権利の一時的制限措置）」によりギャングの取締りを強化したことで、犯罪が減少傾向となっています。しかし、当国は人口比では依然として日本よりも犯罪が多い国であるため、基本的な防犯対策を継続していただき、十分に注意するようお願いいたします。また、交通事故死の件数は前期比と比較して増加しており、車両運転時はスピードを抑え、車間間隔を空け、安全運転を心がけるようお願いいたします。

## 2. 邦人被害事案

日本人の被害は報告されていません。

## 3. テロ・爆弾事件発生状況

日本人の被害は報告されていません。

## 4. 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人の被害は報告されていません。

## 5. 日本企業の安全に関わる諸問題

特に報告はありません。

## 6. 治安関連報道

(1) 「例外措置体制（憲法で保障される権利の一時的制限措置）」の期間延長（10月7日、11月6日及び12月6日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

10月8日、11月7日及び12月7日の各月、当国議会は、例外措置体制（憲法で保障される権利の一時的制限措置（30日間））の期間延長を累次にわたり承認した。

例外措置体制によって、これまで拘束されたギャングは8万3千人以上、ブケレ政権が発足した2019年6月から現在までに、殺人事件が無い日は合計771日間となり、そのうち例外措置体制下での殺人事件が無い日は合計658日間となった。

(2) サンサルバドル市南部サンマルコス区での犯罪地域コントロール計画第5フェーズ「摘出」の実行（10月29日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

10月28日早朝、ブケレ大統領の指示により、サンサルバドル市南部サンマルコス区「10月10日地区」において、犯罪地域コントロール計画の第5フェーズ「摘出」が実行された。これは、国家文民警察諜報局の情報により、例外措置体制での取り締まりから逃亡しているギャングが同地区に潜伏していることが判明したためである。

同作戦では、兵士2,000人、警察500人が動員され、同地区の主要出入り口には、トラック、車両及びバイクを調査するための車両検問所が設置されている。また、出入りする全ての人に対して、身分証明書の提示を要請し、逮捕状や犯罪歴の有無をデータベース

で照会している。

(3) 例外措置体制に対する世論調査（11月28日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

11月中旬、コンサルティング会社 CIDGallup 社は、「例外措置体制が廃止された場合、あなたの生活にどのような影響があるか」について世論調査を実施し、過半数がギャングの報復を恐れていると回答していることが判明した。

調査結果によると、「例外措置体制の廃止（または延長なし）は犯罪の増加を引き起こす」が39パーセント、「恐怖を感じる」が27パーセントであり、エルサルバドル国民の66パーセントが不安を感じている。また、「例外措置体制が廃止した場合、安心出来る」がわずか7パーセント、「わからない・無関心」が22パーセントであった。調査に回答した人の5パーセントが、もし例外措置体制を廃止した場合、ギャングは再びみかじめ料の徴収（恐喝）を行うだろうと回答している。

CIDGallup 社のルイス・ハウ総支配人は、「もし例外措置体制が廃止になれば、犯罪は再び増加し、ギャングによる犯罪に国民が恐怖を感じることになるため、同体制を維持することに賛成している」と述べた。

以上